



『全国学力・学習状況調査』の結果を受けて

本年度4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた『全国学力・学習状況調査』の結果が、9月30日(金)に新聞等で公表されました。報道された順位に一喜一憂することなく、目の前の生徒の課題を冷静に分析し、それぞれに合った対応ができるよう、今後も見通しを持った指導を続けていきたいと思えます。

本校の3年生については、以下のような結果になりました。

【学力調査】

教科	県平均との比較	全国平均との比較
国語A (主として知識)	○	○
国語B (主として活用)	○	○
数学A (主として知識)	△	○
数学B (主として活用)	○	○



※県平均・全国平均に対し、上回っている◎・ほぼ同じ○・下回っている△で表記しました。

〈国語について〉

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域のほとんどの設問について、県・全国平均と同程度の正答率だった。あえて多少低いものを探すと、国語Aの「文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと」、国語Bの「文章の構成を捉えること」の2問で、前者は正しいものを2つ選ぶことを見落とした生徒、後者は解答の選択肢の微妙な違いを読み取れなかった生徒が多かったことが原因であると考えられる。逆に高かったのは、「独創」的な考えという漢字を書く問題である。

〈数学について〉

「数と式」「図形」の2領域はほぼ県・全国平均と同程度の正答率で、「関数」はやや下回り、「資料の活用」はやや上回った。数学Aでは「正の数と負の数の加法の計算」「一元一次方程式」「比例の式でのyの増加量」「一次関数の事象を式で表すこと」、数学Bでは「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し処理すること」の設問で県・全国平均を下回ったが、数学Aの「数量の関係を捉え比例式をつくること」「ひし形の対角線が垂直に交わることを記号を用いて表すこと」「命題の逆」「証明の必要性と意味」「1枚の硬貨を投げたときの確率」の設問では県・全国平均を上回った。

〈方策〉

本年度の天城中学校では、「つかむ・追究する・わかる場面で必要感のあるかわり合いを通して問題解決をする授業」を行っている。課題を自覚するための「学習課題の提示」、わかったことを実感するための「振り返りの場面の設定」は、全教科共通で毎時間行っている取り組みである。

また、本校では、継続的にノート指導に取り組み、現在も「よいノートの例の展示」を行っている。授業での思考の流れがわかるような構造的なノートは、復習にも大いに役立つ。一日1ページの漢字の書き取り練習など、今回の調査でも成果になって表れているものについては、今後も継続していきたい。本年度の3年生については、基礎的な計算力が身につけていない生徒が相当数いることが、この調査でも確認できた。10月からは、毎朝の補習を設定し、計算力の向上に努めている。

【学習状況調査】

教科	県平均との比較	全国平均との比較
国語への関心等	◎	◎
数学への関心等	○	○
総合的な学習の時間への関心等	◎	◎
規範意識	◎	◎
自尊感情	◎※	◎※
言語活動・読解力	△	△
生活習慣	△	△
学習習慣	◎	◎



※県平均・全国平均に対し、上回っている◎・ほぼ同じ○・下回っている△で表記しました。

- ◎「国語への関心」では、すべての質問において、県・全国平均を大幅に上回った。「読書は好き」と答える生徒の割合も、県・全国平均を上回っている。
- 「数学への関心」では、「数学の勉強は大切だ」と思っていて、「数学ができるようになりたい」と思っている生徒の割合が県・全国平均を上回っているが、「数学の勉強は好き」な生徒の割合は、県・全国平均の割合を下回っている。
- ◎「総合的な学習の時間への関心」では、すべての質問において、県・全国平均を大幅に上回った。「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」と思っている生徒が9割を超えていることは、本校の大きな特長である。
- ◎「規範意識」では、ほぼすべての生徒が「学校の規則を守っている」と答えた。
- ◎「自尊感情」では、「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合が、県・全国平均を上回っているが、※「当てはまらない」を選択している生徒もいる。「学校に行くのが楽しい」と答える生徒も、県・全国平均を上回っている。
- △「言語活動・読解力」では、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」が得意な生徒も目立つが、苦手な生徒の割合が県・全国平均より高い。「考えを人に説明したり文章に書いたりすること」が苦手な生徒の割合も、県・全国平均より高い。
- △「生活習慣」では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒の割合が、県・全国平均よりも若干低い。
- ◎「学習習慣」では、「授業の予習をしている」という生徒の割合は、県・全国よりも若干低いものの、「家で宿題をしている」「授業の復習をしている」生徒の割合は、県・全国平均よりもかなり高い。
- 「その他」：◎「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」生徒の割合が県・全国平均よりもかなり高いのは、「葵流祭、体育の部や文化の部等で味わう達成感や成就感の表れであると考えられる。」◎「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」生徒の割合が高いにもかかわらず、○「地域の行事に参加している」生徒の割合は、県平均程度である。

〈方策〉

学習については、わかる喜びが授業の楽しさにつながると考え、前述のような、授業改善や補習に取り組んでいきたい。本校の課題だった「自尊感情」については、総合的な学習の時間や学校行事など、様々な教育活動の成果として向上の傾向が見られる。引き続き、生徒が集団としても個人としても自信を持って自己表現ができる場を設定し、一人一人に寄り添って支援していきたい。総合的な学習の時間等で、学校から地域を見つめる目は育っている。地域の防災訓練や伝統的な行事などへの参加態勢についても、いっそうの後押しをしていきたい。

最後に、スマートフォンやゲーム機については、この調査において本校3年生の使用状況は県・全国平均と比べて高くはなかったが、3割以上の生徒が家で2時間以上使用している実態があった。1, 2年生をみても、同様かそれ以上の使用の実態だと思われる。現実には、家庭学習の習慣が身につかないこと、心身の疲労が蓄積していくこと、ネットによるトラブルなど、様々な問題が生じている。学校と家庭が連携し、今後もこの問題について真剣に考えていきたい。

⇒ 11月10日(木)開催の家庭教育学級に、ぜひご参加ください。

